

1. 廃棄物のゼロエミッション活動の展開

循環型社会の形成に向け、廃棄物の適正な管理・処理を行うとともに、2001年から3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する廃棄物ゼロエミッション活動に取り組んでいます。

産業廃棄物

当社が排出する産業廃棄物には、火力発電所の運転に伴う副産物(石炭灰、石こう)や工事に伴う撤去資材などがあります。これらの産業廃棄物については、適切な管理・処理を行うとともに、発生量の抑制(Reduce:リデュース)、再使用(Reuse:リユース)、再生利用(Recycle:リサイクル)の3Rを実践しています。

産業廃棄物の発生状況とリサイクル率(2015年度)

	発生量 (トン)	リサイクル量 (トン)	リサイクル率 (%)	主なリサイクル 用途
石炭灰	705,000	705,000	100	セメント原料 コンクリート混和材
重原油灰	884	884	100	バナジウム回収
石こう	109,000	109,000	100	セメント原料
汚泥	7,080	3,180	45	セメント原料
廃油	2,430	2,410	99	燃料油に再生
廃ブラ	214	192	90	助燃材
金属くず	15,000	15,000	100	金属材料
廃コンクリート柱	11,600	11,600	100	路盤材、建設骨材
ガラス・陶磁器くず	49	48	98	ガラス製品材料
特別管理 産業廃棄物※	341	304	89	セメント原料
その他	176	147	84	助燃材
小計	147,000	143,000	97	
産業廃棄物総合	851,000	847,000	約100	

(注) 有効数字3桁にて記載。四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※:「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)」において、人の健康または生活環境に係る被害を生ずる恐れがある性状を有するため特別管理産業廃棄物として規定されている汚泥、廃石綿等、廃油、廃アルカリ及び廃酸。

WEB 産業廃棄物の発生量とリサイクル率の推移については九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 産業廃棄物の発生量とリサイクル率

発生量の抑制(リデュース)への取組み

発電所では、発電設備の保全リスク管理※を徹底しており、これに基づく適切な工事計画の策定・実施により、廃棄物の発生量抑制に取り組んでいます。

※: リスクマネジメントの考え方を設備保全に適用した手法の一つであり、設備の劣化・破損・故障に起因する種々の影響をリスクとして捉え、そのリスクの大きさに応じて設備保全方針を決定していく手法。

再使用(リユース)への取組み

配電工事等で撤去した電力用資機材については、再使用に必要な性能、品質を有しているかなどを適正に判断し、再使用しています。

配電用資機材の再使用状況(2015年度)

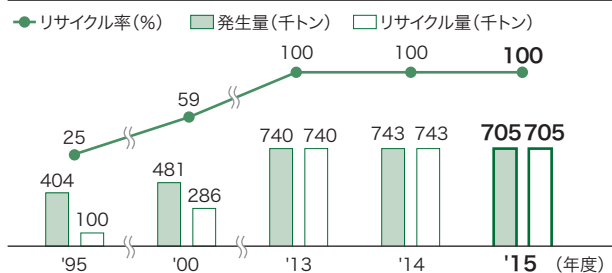
	撤去数※[A]	再使用数[B]	再利用率[B/A](%)
柱上変圧器(台)	16,769	16,769	100
柱上ガス開閉器(台)	899	899	100
低圧電力量計(個)	636,830	493,244	77
コンクリート柱(本)	6,589	6,589	100
高圧線(km)	483	483	100
低圧線(km)	895	895	100

※:旧仕様・型式等により、再使用できないものや修理対象外のものは除く。

再生利用(リサイクル)への取組み

2015年度は、発生した産業廃棄物約85万トンをはほぼ100%リサイクルしました。産業廃棄物の大部分を占める石炭灰については、石炭灰の特性を活かしたセメント原料などへの有効利用を行っており、100%リサイクルしています。

石炭灰の発生量とリサイクル率



WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 石炭灰の新たな有効利用への取組み

WEB その他の取組みについては九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 配電用資機材の再生利用状況

用語集をご覧ください

>> 循環型社会
>> ゼロエミッション
>> 3R
>> 産業廃棄物

>> 石炭灰
>> 石こう
>> リサイクル率
>> 重原油灰

>> 汚泥
>> 石綿(アスベスト)
>> リスクマネジメント
>> 柱上変圧器

>> 柱上ガス開閉器
>> バナジウム